

能「隅田川」

(日本語字幕付き)

Noh Sumidagawa ×
Benjamin Britten Opera Curlew River

2020.
10.18

[日曜日] 14時開演(17時10分終演予定)

よこすか芸術劇場

連続上演

オペラブリテン
「カーリュー・リヴァー」

(一幕・原語上演、日本語字幕付き)

能「隅田川」×オペラ ブリテン「カーリュー・リヴァー」連続上演「幻(GEN)」

カーリュー・リヴァー	オペラ・ブリテン作曲	「カーリュー・リヴァー」
フルート..上野星矢	横須賀芸術劇場少年少女合唱団	横須賀芸術劇場少年少女合唱団
ハープ..高野麗音	金沢青児	小沼俊太郎
ベース..根本らぐみ	寺西一真	吉田宏
ピアノ..野本洋介	山本将生	寺田穂二
オルガン..鈴木優人	奥秋大樹	坂下忠弘
コンtrapas..吉田秀	西久保孝弘	与那城敬
合唱指揮..谷本喜基	加藤宏隆	鈴木准
修道士たち	横須賀芸術劇場少年少女合唱団	横須賀芸術劇場少年少女合唱団
巡礼者たち	金沢青児	小沼俊太郎
旅人	寺西一真	吉田宏
渡し守	山本将生	寺田穂二
狂女	奥秋大樹	坂下忠弘
指揮..鈴木優人	西久保孝弘	与那城敬
笛	鈴木准	鈴木准
竹	坂下忠弘	坂下忠弘
市	吉田宏	吉田宏
学	寺田穂二	寺田穂二

“幻”が結びつける 2つの物語



彌勒忠史（演出）

観世喜正（演出）

Opera Curlew River

1956年2月、東京で能『隅田川』を見たブリテンは「シンプルにして感動的な物語…それはまったく新しい“オペラ的な”体験だった」と語った。そしてオペラ（教会上演用寓話）『カーリュー・リヴァー』は生まれた。舞台は架空の川へと移され、中世イギリスの宗教劇へと変換された。修道士たちの単旋律聖歌、時を刻む打楽器と、雅楽の笙のように空間に広がるオルガンで、厳かに物語が始められる。

カーリューとはダイシャクシギのこと、海岸の泥地や内陸の湿地を好む鳥である。はじめ低く、続いて滑らかに音高を上げて鳴く声が「カーリュー」と聞こえることからその名がついたとされる。母が、奪われたわが子を捜し彷徨い、狂女となって嘆く旋律はまさしくこの鳴き声だ。巡礼の人々や旅人に寄り添う川のせせらぎ、渡し守の舟漕ぐ動き…音楽は情景を目の前に浮かび上がらせる。西洋と東洋が混じり合う不思議な響きの隅々に、能『隅田川』への作曲家の敬意が満ちている。狂女が旅の果てに辿り着いた場所で人びとと祈りが一つになった時、そこにいる皆が奇蹟を「体験」する。

オペラ歌手 鈴木准

15世紀に作られた能「隅田川」にイギリスの現代音楽の巨匠 ジ・ベンジャミン・ブリテンが触発されて作曲したオペラ「カーリュー・リヴァー」。この和と洋の異なる作品を同じ空間で連続上演します。異文化の作品を通して語られるそれぞれの魂の物語。ぜひ、ご自身の目で耳で体感してください。

横須賀芸術劇場がオリンピック・イヤー =文化の祭典に創る新たなレガシー

能とオペラ、異文化の作品の連続上演は、仏教的世界観とキリスト教的世界観の対比など、東洋と西洋、日本とイギリス、文化の融合を、舞台芸術（本作品）を通して体験できる、またとない機会となります。演出では、能楽界の新時代を牽引し、よこすか能をプロデュースしている観世喜正と演出家として頭角を現す、オペラ歌手 彌勒忠史が手を組み、オルガニスト、指揮者として実力、人気ともに高い鈴木優人が、初めて現代オペラを弾き振りすることに大きな注目が集まります。

Noh Sumidagawa

能『隅田川』は、場面が移り変わることに変化していく母の心情を、能ならではの表現で描いています。

武藏と下総の境を流れる隅田川。渡し場にやって来た母は、緩急のある囁きに合わせて物狂の心の高ぶりを示します。乗船を乞う際には、古の在原業平の「名にし負はば、いざ言問はん都鳥、わが思ふ人はありやなしや」の歌に子を思う気持ちを重ねて、物狂の芸を見せます。

隅田川の船上。船頭は、ある少年の話を語り始めました。「一年前の三月十五日、まさに今日、人商人の連れていた十二三才の少年が、病のため隅田川のほとりで亡くなった」と。第三者の視点による語りですが、船頭の少年への同情がにじみ出ています。また、能面のわずかな動きを通して、話をじっと聞く母の不安も感じられる場面です。

対岸で母は船頭を「少年の年齢は、名前は…」と問い合わせます。その少年こそ我が子梅若丸と確信した母の絶望……。梅若丸の塚の前で泣き伏した母が、大念仏に加わると、地謡の謡う、哀愁に満ちた大念仏の響きの中から、「南無阿弥陀仏」と梅若丸の声が聞こえ、梅若丸の亡靈が現れます。母は手を差し伸べますが、亡靈の姿は消えてしまいます。やがて夜が明けると、草の茂る塚に立ち尽くす母の姿がありました。観る者に深い余韻を与える作品です。作者は世阿弥の息子、観世元雅。

法政大学能楽研究所 兼任所員 中司由起子

笛	笛	笛
竹	竹	竹
市	市	市
学	学	学
狂女	狂女	狂女
渡し守	渡し守	渡し守
梅若丸	梅若丸	梅若丸
旅人	旅人	旅人

地謡	地謡	地謡
後見	後見	後見
觀世喜之	觀世喜之	觀世喜之
遠藤喜久	遠藤喜久	遠藤喜久
弘田裕一	弘田裕一	弘田裕一
佐久間二郎	佐久間二郎	佐久間二郎
小島英明	小島英明	小島英明
桑田貴志	桑田貴志	桑田貴志
中森健之介	中森健之介	中森健之介

館田善博
森常好
観世喜正



館田善博 森常好 観世喜正



亀井広忠 飯田清一 竹市学

衣裳：観世九皐会（能）、友好まりこ（オペラ）
照明：加瀬隆純（能）、稻葉直人（オペラ）
舞台監督：齊藤美穂、小池和彦（能）
演出助手：伊奈山明子（オペラ）
副指揮者：平野桂子（オペラ）



上野星矢	根本らぐみ	中村翔太郎	吉田秀	高野麗音	野本洋介
------	-------	-------	-----	------	------

GEN

横須賀芸術劇場の伝統「よこすか能」と
「オペラ宅配便シリーズ」

オペラハウス様式の当劇場で行う、能楽堂では味わえない舞台と、観世喜正の伝統を守りつつ、その概念に捉われない斬新な演出で人気を博している「よこすか能」。彌勒忠史の常に実験的な演出でありながら、オペラをもっと身近に楽しめる人気公演の「オペラ宅配便シリーズ」。異文化作品の連続上演として、横須賀芸術劇場ならではの20年以上続く伝統芸能とオペラが一つになる貴重な公演となることでしょう。

能「隅田川」×オペラ ブリテン「カーリュー・リヴァー」 連続上演「幻(GEN)」

2020.10.18[日] 14:00開演／17:10終演予定 よこすか芸術劇場



無料鑑賞モニター募集(18歳~24歳まで)
※詳しくは劇場ホームページをご覧ください。

◎プレトーク

演出「観世喜正×彌勒忠史」二人による
プレトーク“幻”

演出家であり演者でもあるお二人を迎えて、公演を前に、それぞれの演目のみどころや、作品の共通点。また、異なるジャンルのお二人の繋がりなどをお話しいただきます。

7.26[日] 横須賀芸術劇場リハーサル室
入場無料

*詳しくは劇場ホームページをご覧ください

○チケット料金

S ¥10,000 A ¥8,000 B ¥6,000 C ¥4,000 チケット発売日 4月25日[土]

*学生券(24歳まで)は、一般料金の半額。*劇場プレミアム俱楽部は、10%OFFとなります。*未就学児童は入場できません。
*託児サービスあり(定員有。10月12日[月]までの事前予約制)。お申込み わらべうた0120-415-306(月~金 9時~18時)

○チケット申込

横須賀芸術劇場 <https://www.yokosuka-arts.or.jp>

046-823-9999(劇場プレミアム俱楽部専用ダイヤル 046-823-7999)

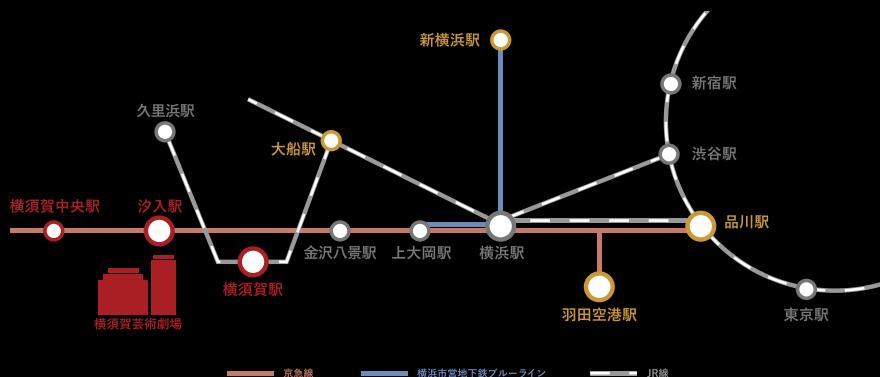
窓口／芸術劇場1階／サービスセンター内、横須賀中央駅西口モアーズシティ1階／モアーズストリート

●チケットぴあ <https://t.pia.jp> 0570-02-9999[Pコード 182-719] ●イープラス <https://eplus.jp>

●ローソンチケット <https://l-tike.com/> 0570-000-407[Lコード 33188]

●楽天チケット <https://ticket.rakuten.co.jp/> *楽天スーパーポイントがたまる!

●神奈川芸術協会 045-453-5080



よこすか芸術劇場

京急汐入駅前／JR横須賀駅徒歩8分

Tel.238-0041 横須賀市本町3-27

Tel.046-828-1600

休館日 原則毎月第2水曜日、および年末年始

主催・制作 = 公益財団法人横須賀芸術文化財団
協賛 = エイビイ／株式会社ヤチヨ
後援 = 横須賀市／ブリティッシュ・カウンシル



宣伝美術
秋澤一彰